

「活かす」

■エピソード

長く勤めた会社の支店長を退職した正夫さんは、妻にすすめられて地域のボランティアグループに参加しました。

地域の小学生と保護者がいっしょに参加した公園そうじの日のことです。

しばらくすると、子どもたちは、ほうきをバットにみたてて野球をしたり、公園のすみっこでしゃべったりしはじめました。

それを見ていた正夫さんは…。

正 夫：「君たちは何をしに来ているんだ！
ちゃんと責任をもってやらないといけないじゃないか。」

子どもたちはびっくりしたのか、ちらばっていってしまいました。

保護者A：「…いやあ、しかっていただいて助かりました。
なかなか言うことをきかないものですから…。」

正 夫：「そんなこと言っているから子どもが勝手なことをするんですよ。子どもといっても、誰かがさぼっていたら、みんなのやる気がなくなるじゃないですか。びしっと言わないと…。」

保護者B：「うちの子はびっくりしていますよ。いきなり怒らなくても…。子どもなんだから少し遊ばせてやれば、そのうちにそうじするようになりますよ。」

正 夫：「ちょっと言いすぎたかも知れませんが…。でも、みんながやっているのに、あまやかせてはだめだと思いますよ。」

保護者B：「休みの日だし、ボランティアでやっているんですから。子どもも自分のペースでやればいいんじゃないですか。きびしくしかるとみんなの気分をこわしてしまいますよ。」

保護者A：「いやあ、かえて子どもはやる気になったようですよ。これもいい経験



になるんじゃないでしょうか。親が言うより、誰かにしかってもらったほうが言うことをききますよね。」

正 夫 : 「……………」

川 田 : 「話がもりあがっているようですが、ここはさきにひと区切りつけることにしませんか？おーい、みんな。こっちへ来て、落ち葉をあつめてゴミ袋に入れてくれよ。みんなでいっしょにがんばれば、もう少しだからね。」

ボランティアの仲間の川田さんのことばで作業が再開されました。



【話しあいのポイント】

●正夫さんと二人の保護者、川田さんとのやりとりについてどう思いますか？

●あなたのもっている力はどうすれば活かせるでしょうか？